山行報告書

通算山行NO	No．108S　東北ツアー	報告者	来生博子
年月日	’97年　8月　10日（　日曜日）～’97年　8月　14日（木曜日）		
山行名	東北ツアー		
山名	飯豊連峰（胎内口・大石山・朴差岳・頼母木山・地神山・門内岳・北股岳・梅花皮岳・烏帽子岳・大日岳・御西岳・飯豊山・種蒔山・三国岳・川入）		
この山のセールスポイント	数々の大雪渓・点在する池の山稜は、神が咲かせた花に包まれる		
1日目　天候	5日より九州地方に停滞の台風11号の為一日遅らせての決行。出発時蒸し暑いが天気良。御殿場は深い雰。新潟まで雰や雨降ったり止んだり。胎内では晴れ。		
標高差	△S　T　≠　m	体力度	1　2　3　4　5　6
	▼T　G胎内ヒュッテ　≠　330m	技術度	1　2　3　4　5　6
走行距離	裾野　～　胎内　≠　550km	展望度	1　2　3　4　5　6

参加者役割			
CL	後藤　隆徳	50	22年ぶりの飯豊山だ。
SL	大根田元男	61	ヒメサユリを期待して計画を立てた。
装備	飯塚　周一	54	初めての長期のどでかい飯豊山行にテープを巻いて参加しました
医療	高岡八千代	59	一日遅れて待遠しかった。
会計	加藤　秀子	48	はっきりしない台風でキャンセルにならずに良かった。
記録	来生　博子	48	年度計画立案の頃から楽しみにしていた山行だ。

コース

AM4：00 **裾野市役所発ー御殿場**（深い雰、台風で飯豊もこんな天気だろうかと心配。が籠坂トンネルを出るとガラリと変わり晴天。）

5：40 **八王子ＩＣ**　（中央道からＲ16　青空に朝日が上がる。）

6：00 **狭山**　（後藤から加藤に運転交替。入間ＩＣから関越道に向かうところ 逆方向の青梅に向かってしまい青梅ＩＣよりUターン）

6：30 **圏央道青梅ＩＣより関越道鶴ケ島ＪＣ**　（通行量増え、飛ばし屋の加藤も慎重）

7：00 **寄居ＰＡ**　（明るいが小雨降り続く。トイレ休憩、渋滞は続く）

7：40 **赤城**　（左前方の奥に谷川岳の双耳峰が見えるぞ、と会長の声。平標山の雪稜を歩いた事を思い出し、今年はスキーで滑りたいと思った。）

8：00 **月夜野町**　（トンネルを抜けると空っぽのスキー場、ホテルが並ぶ。沿って流れる黒沼川では鮎が釣れると、釣り師の飯塚の目が輝く。）

8：30 **塩沢石打ＧＳ**　（ガソリン補給、加藤から後藤に運転交替）

9：40 **三条市**

10：00 **黒崎町**　（れんこんの産地かピンクや白の蓮の畑が目立つ中、青々と豊かな田園のローカルな風景に目も心も休まる。）

１０：１０ **新潟亀田ＩＣ**　（あられの亀田とよく思われているらしいが違うという事。）

１０：３０ **新潟駅前－昼食**　（中央郵便局前の駐車場は３０分２００円だが無人で開いていた。食事の１時間ただで利用できラッキー。殆どの食事処は11時半からの開店。「まるよし」だけがAM7:00~PM9:00で開いていた。美味。

１２：２０ **新発田**　（バイパスに入ると渋滞が続くし雨も降っている。加治川橋を渡って裏道へ逃げ加治川村、中条とＲ７へ再び入り追分を過ぎるとＲ７と別れる。黒川村の胎内川では腰まで浸かった釣り人が多く、飯塚の血が騒いでいる様子。）

PM１：１２ **Ｒ２９０交差**
胎内パークホテル休憩　（胎内川に沿い５分もすると胎内観音入り口が進行方向右にある。交差点から程なく胎内パークホテルの大噴水が間欠泉の様に高く吹き上げているのが見える。高台の崖っぷちに造られた野天風呂は、石張りで四阿のように張り出した屋根付き、木々の向日に大噴水を見ながら小雨降る中すっかり寛ぎ、長い道中の疲れが飛んだ。）

２：３０ **胎内ヒュッテ着**　（建物は、やまめ釣りが多く訪れる胎内川の清流を遥か下に従え、りっぱな樹齢の木々の間にあり、北側には伊豆の明徳寺と同じ御神体が祀られてあり、キャンプ場が備わっている。管理人は７０過ぎのお爺さん一人だった。

新潟市内の陸上部という、男女込み小学５年生から大人まで２０人位のテント合宿の人達、ヒュッテ利用は我ら６人と同じ山を目指す夫婦らしき２人が広い２階に、下には単独登山の老人と、加藤や私と同じくらいの年の女性１人、やまめ釣りに昨日から来ている男性２人連れだ。

それに土曜日に入山し帰ってきた若い男性と釣り人１人が揃うと暫し活気が湧いた。

皆に食べさせたい、と丁寧に包んで持ってきた鮎の塩焼きは飯塚のこだわりの逸品。自分で釣り上げた新鮮物を備長炭で踊るように色よく焼きあげ形を崩さずに持ってきたとは憎いまでの心尽くし。３尾も頂いた。きゅっきゅっと背を軽く押さえて骨を抜く術は凄い！頭から尻尾まで全部食べれるのに贅沢してしまった。２０㎝余りのを１尾、管理人のおじいさんにあげると、こんなでかいのはこの辺じゃあ釣れないと喜ばれた。

食事は自炊が規則。明るいうちに取り掛かる。焼肉と海草サラダにそうめん、きゅうりに生ハムを巻き、レタスやエシャレット、新生姜を味噌で食べ、ビールも充分。明日の英気を養う。

それにしても東北の山深い地に来てこの蒸し暑さとは。まだまだ明るい４時半、皆で辺りを散歩する。深い谷が連なり、高い山々が聳える。川は綺麗だ。その明媚な川原に下りたかった。川原へいってくるよ、と言ったのが聞こえなかったのか、１人川原に降り堪能してヒュッテに戻ると皆がいないではないか。上の二人連れに聞くと、「温泉に行ったみたいですよ。」あら～、遊んでるうちに置いてかれてしまった。

また一人、今度は山側の植物を観察に出掛ける。そのうち暗くなり、釣りの２人はのんびりと獲物を調理して食事をたのしんでいる。

５０代のその人達は、昔は山に幾日も入ったが、今は渓流釣りに転換し釣った魚をサシミ・塩焼き・味噌汁・ムニエル等自分たちで料理して食べるのが楽しみだという。頂いた味噌汁の具はやまめ、美味しかった

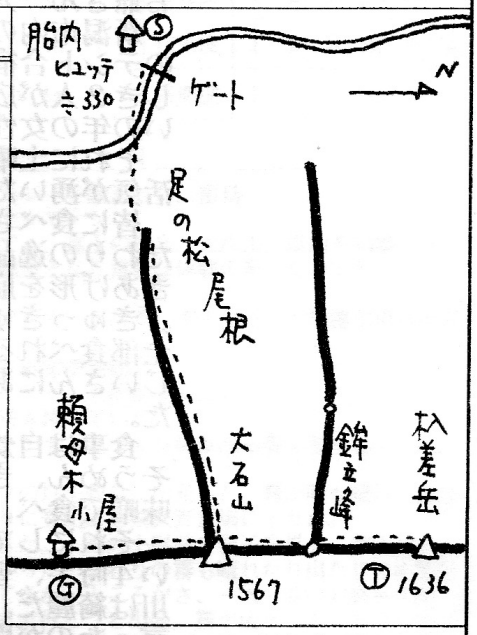
それぞれの楽しみ方がある。ヘッドライトを点けて車が帰ってきた。アイスクリームのお土産を頂き、広い２階に銘々ちらばり身を休める。

自にす述	
	１．どの山間いも恐いくらい深い谷だ。目立った人工物はなく自然だった。 ２．枯葉のような色の巨大ナメクジに閉口する。 ３．山にも川にも水が豊富

・ 体力度 ＝ 1級・とても楽　2級・楽　3級・普通　4級・やや大変　5級・大変　6級・非常に大変
・ 技術度 ＝ 1級・とても易しい　2級・易しい　3級・普通　4級・やや難しい　5級・難しい　6級・非常に難しい
・ 自然度 ＝ 1級・とても悪い　2級・やや悪い　3級・普通　4級・やや良い　5級・良い　6級・非常に良い

山名	大石山（1,567m）・地神山（1849.6m）	報告者	大根田元男
この山のセールスポイント	花の山・尾根縦走		
コタイスム 8月11日	（起床3:00）胎内ヒュッテ4:10→足の松尾根取付4:50→姫子の峰5:51→滝見場6:49→大石山9:05→鉾立峠9:52→杁差岳10:27 →大石山11:00 →頼母木小屋12:26（頼母木小屋泊）		
標高差	△S胎内（330m）～T杁差岳（1,636m）≒ 1,306m ▼T ～G ≒ m	体力度	1・2・3・4・⑤・6
		技術度	1・2・③・4・5・6
		展望度	1・2・3・4・⑤・6

参加者役割				
	CL	後藤 隆徳	50	２２年前未登の杁差岳に登った。
	SL	大根田元男	60	登りは苦しい。花の尾根歩きは楽しい。
	記録	飯塚 周一	54	杁差岳下りを過ぎ、鉾立峰で滑りそうなった。左足が良く耐え良。
		来生 博子	48	単調な所で飛ばし過ぎ、大石山まで体調を崩す。皆に迷惑をかけた
	医療	高岡八千代	60	あとで見た杁差岳は凄く大きかった。
	会計	加藤 秀子	48	急登に苦労して登った後の、清々しい満足感がこたえられない。
	会員６名 ・ 全体６名			



第２日目（曇りのち雨のち晴れ）

胎内（これより先一般車輛通行禁止）を予定時間より早めに出発。登山口近くの分岐点までは立派な舗装路。歩く速度が早くトップ者より前に出て歩き注意される人も。ペースを少し落とす。足の松尾取付登山口からはブナ林。少し入った所からは急登の連続であり木の根に捕まりながら登る。

姫子の峰・滝見場までは視界なし。無風状態で暑さには閉口する。時々急な下り道があり、折角登ってきたのにと思うとガッカリさせられる。尾根道になって視界も開けてきて雲の中にどっしりとした北股岳が右方に、前方には傾斜のきつい鉾立峰が見えて高度をかせいで登っているのがわかる。このコースは利用者が少ないのか３名の下山者しか会わなかった。

滝見場から来生が遅れ始め、ついて来られないので頼母木（タモギ）小屋で待ち合わせの指示を与える。私達は先行して大石山に到着。ここでサブザックに換えて杁差岳の往復を目指す。草原の尾根道になり各種の花が咲き誇り、気分転換となって疲れを癒してくれる。鉾立（ホコタテ）峰の登りもきつい。来生の無線と連絡をとりながら杁差岳頂上に立つ。ガスで視界はきかなかったが、タカネトリカブト（エブリサシ）が咲き誇っていた。

写真撮影後、直ちに下山。直下の杁差小屋は新しく建て替えられた立派な無人小屋である。ハイピッチで大石山に引き返す。頼母木小屋手前まで来た所で来生が出迎えに来てくれ合流。宿泊場所を確保して一休み。早く着いたので小屋は空いていた。

宿泊計画は門内小屋であったが、体力的にきつく、天候もハッキリしないので変更した。日暮れまで十分時間があったので外に出て花の散策。その後、飯塚・来生・大根田の３人で頼母木山まで行き、北斜面雪渓近くに遅咲きのササ百合、可愛いヒメサユリを見てきた。尾根の北斜面では所々に雪渓が残っており、花の咲く時期にも少しズレがあるようで初夏の花が咲いていて山歩きする者には嬉しい事だ。

日暮れになり日本海に沈む太陽が、雲の中に輝いていて美しい眺めであった。（頼母木小屋の冬は２階から出入り出来るように鉄ハシゴが取付けられてあった。飯豊連峰の雪量が想像できる。飯豊の全小屋は２階建てであった。）

1. 山全体が大きく人工物も見えず、花の種類も多く良かった。
2. 足の松尾根には、沢山雨量測定機があった。
3. 小屋には黒川村役場の職員の小屋番が交替で入山するとの事。入山時、来生が会った職員は山が好きでなく「イヤイヤ」との事。
4. 小屋からの杁差岳は鳥が羽を広げたような、大きく立派な山だった。
5. 後藤は２２年振りの頼母木小屋だった。
6. 同宿者が、夜ライトがどうの、朝早くこうのとうるさかったが小屋では当たり前。イヤならテントにすべき。

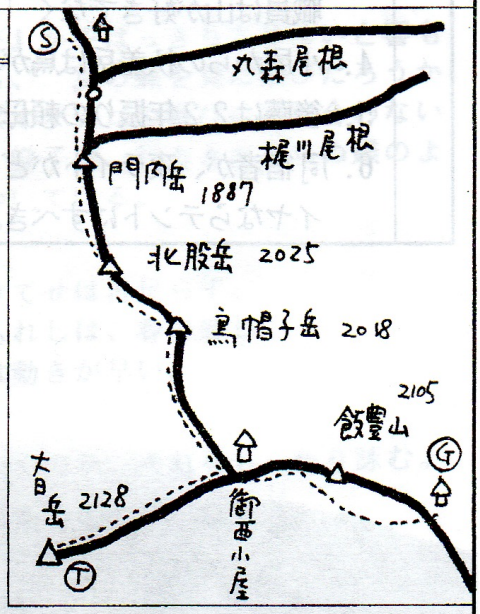
大石山から鉾立峰をへて杁差岳に向かう

山名	門内岳 (1,887m) ・ 北股岳 (2,024.9m) ・ 鳥帽子岳 (2,017.8m)	報告者	飯塚周一
この山のセールスポイント	延々と続くお花畑		
コタイム 8月12日	(起床3:00) 頼母木小屋4:20→地神山5:40→扇の地紙6:10→門内岳6:47→北股岳7:53→梅花皮岳8:50→鳥帽子岳9:20→御西小屋12:00 →大日岳13:15→御西小屋14:10 →本山小屋15:50		
標高差	△S ～T ≒ m ▼T ～G ≒ m	体力度	1・2・3・④・5・6
		技術度	1・2・③・4・5・6
		展望度	1・2・3・4・⑤・6

参加者役割				
	CL	後藤 隆徳	50	大日岳が良かった。エキサイティングな山だった。
	SL	大根田元男	60	北面のお花畑が最高だった。
	記	飯塚 周一	54	夏山の全天候を体験しました。白い花が美しい。
		来生 博子	48	霧のお花畑は高校時代の八ケ岳を思い出しました。
	医	高岡八千代	60	満足で言う事なし。
	会計	加藤 秀子	48	自然の驚異を身をもって体験した。奥深い自然が今も心に残る。
	会員6名 ・ 全体6名			

第3日目（雨のち曇り・のち晴れ・のち雷雨・のち晴れ）

起床3:00。小屋はほぼ満室の状態に登山者が寝ている。我々パーティが一番の早立ち。素早く朝食。カレー雑炊を腹におさめパッキングを済まし外へ出る。天候はいまいち。雨は降ってはいない。各自出発前のストレッチを済ませ、CLのGoサインを待つ。



頼母木小屋は山頂より10分下った所に立ち収容人員50名。黒川村役場の職員が交替で管理している小屋。水はサイフォン原理を用い汲み上げているとの事。常時冷たい豊富な水がパイプより流れ出、炊事や身の回りを整えるにはGoodな小屋でした。

『さぁ一行こう』CLのGoサイン。昨日来生の体調が少し悪かったので、ミーティングで決めたオーダー、トップ大根田・2番来生・3番飯塚・4番高岡・5番加藤・ラストCLで出発する。薄暗がりの中ヘッドランプの光にマツムシソウ、フウロウがちらほらと浮かび上がる。『早いぞ！スタートはゆっくり』CLより声がかかる。今朝は全員体調が良く足が揃う。天候も何とか持つかな・・・と言っている矢先、一気にシャワーのような雨になる。CL・加藤・高岡はこの一瞬のシャワーに傘で対応。大根田・来生・私はザックを下ろし雨具を出し着るまでに、ザックの中から全身ズブ濡れ。（私の反省。衣類のパッキングはビニール袋へ。雨具は最上部へ）幸い気温が高いので寒くはない。10分早く降ってくれれば完全装備で出発でき濡れずに済んだのにと愚痴る。

頼母木山・地神山・扇の地紙と通過。梶川尾根分岐にて10分レスト。CL赤飯のむすび

を食べ『これは美味い！最高！』と評価する。やがて門内小屋到着。小屋は門内岳北側にあり頂上は小屋より５分。周囲はお花畑。計画では第１日目の泊まり予定地。門内岳を通過。北股岳への登りにかかる。標高差は 150m。全員足が揃い快調。登り途中の小ガレで今日の３本目を立てる。この頃より雨が上がり、適当な西風で衣服が渇き始め気持ちが良い。

加藤の明るい声に皆、笑いが絶えない。このレストで先にＣＬの評価した赤飯を全員が食べる。ゴマ塩を効かせると美味。腹におさまるとズッシリ、エネルギーが満たされた様だ。はじめて今日カメラを出す。加藤すかさずＶサインで応えてくれる。20分程で北股岳へ着く。山頂には鳥居と小さな祠があり、小銭が上がっていた。Ｒしたばかりなので通過。然しＣＬに少し待ってもらい三角点へ。今日の山行の安全と天候の回復を願ってウィスキーをこぼし写真を一パチン。ガスの中露出不足の写真ができそう。

梅花皮（カイラギ）小屋通過。小屋前で化粧をしている女性有り。カメラを向けようとしたが遠慮した。ここにはメインルート、石転沢への分岐がある。カワユイ女子大生10人程のパーティとすれ違う。途中４本目を立て梅花皮岳を通過。与四太郎の池、小さな池塘を見、北側斜面に切れ落ちた岩場を見、ガスに包まれたお花畑が続く。南斜面は加藤が昨日から『私のイメージにぴったりの草。謙虚で、もの静かで、３歩下がって師の影を踏まず』云々・・・風知草（フーチ）の背の低い笹原が続く。Ｐカンでは暑そう。

鳥帽子岳到着。10人程の先客がいる。10分Ｒ。雲が一層薄くなりこれは期待できそう。適宜行動食をとる。赤飯が美味。天気は急速に回復し雨具を脱ぐ。北面はるか下方に白い雪を残した沢筋が見える。お花が一層素晴らしい。花についてはスペシャリストの来生に書いて頂くのでお任せ。然し、ＯＨ　ＷＨＡＴ　ＢＥＵＴＩＦＵＬ！！とブロークンが飛び出す程のお花畑。私は特に白い花が印象的。ミヤマニンジン、コバイケイソウ、シシウド、ハクサンイチゲ、モミジカラマツ等が風にゆらぎ、アクセントにキンポウゲ、キリン草、シナノキンバイ、フウロが咲き薄いベールの様なガスが全体を包み込む。全員感嘆の声の連続。

前方に御西岳、飯豊山が双耳の山のように姿を見せ天気はＰカン。濡れていた衣服は一旦乾き、今度は汗で濡れてきた。『御手洗の池』で読み方で諸説が出る。丁度ここでＲしていた他パーティからも一説が出る。諸説が発展し『雪隠』まで行き落ち。笑いが絶えず足は軽い。北斜面には豊富な残雪の雪渓、雪田が続き、雪の消えたばかりの斜面にはサクラ草が見える。ＣＬはこの花が好きな様で、この花の名前を呼ぶ時には声が違う。

前方には一層大きくなった御西岳、飯豊山を見ながら1,979mのピーク・天狗岳への登り。時間は11:30 をまわり腹が減る。『あのピークまで登って一本たてるか』と大根田。ピークに立ってザックを下ろそうとすると、15分位の所に御西小屋が見える。ＣＬ『ここでは休まない！先を急ぐから御西小屋まで頑張れ！』ガックリ。やっと着いた御西小屋は大勢の登山者で賑わっている。ここで大休止と思いきや、行動食を一口頬張り水を持って10分後に大日岳へ向かう。

(上) 頼母木ヒュッテ

(中) ヒュッテからみた

— 杁差岳

(下) ヒュッテ前にて

(上) お花畑の稜線をゆく

(中) ふり返ると北股岳、烏帽子岳が大きい

(下) 御西小屋手前にて

初めて歩行オーダーを崩す。先頭の大根田さん御苦労様でした。安心して歩けました。大日岳へは登り80分のコースタイム。ＣＬ・加藤は28分で登頂。これには吃驚！我々は55分で登頂大日岳には三角点はないが、大石門内、鳥帽子岳、そして御西岳、飯豊山と見る事ができ素晴らしい。ピークの石にウィスキーをこぼし一口づつ飲む。ウィスキーが甘く感じる。

再び御西小屋へ戻り缶ビールで乾杯。ウマイ！！この缶ビールいわくつき。大日岳が見える時は値段が上がるそうな。１本千円に。加藤この話し本当？大日岳の往復でハムストリングを使い切り、ペースが上がりそうもない。混雑が予想される本山小屋の場所取りの為にＣＬ・加藤に先行してもらう。10分遅れで高岡、来生。濡れて気持ちの悪い靴下を替えていた私は大根田に待ってもらい20分遅れで御西小屋を後にする。

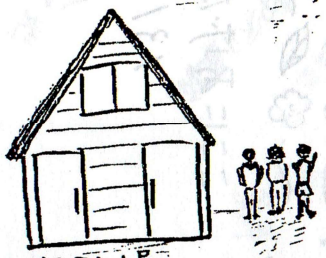
本山へ続く緑の登山道。はるか向こうから『レイ～ホ～』の声。『ヤッホ～』と応える。玄山道分岐を左折しＣＬは飯豊山を巻いていく。高岡も間をおいて続く。分岐より５分の所に清水がコンコンと湧き出している。大根田と一息。ポリタンを満たす。そして地図を出しＣＬ道を間違えたのではと思い確認する。やはり通行禁止と記載されている。大根田と二人分岐に戻り稜線を歩き飯豊山を経由して本山小屋へ行こうか・・・と相談するが結局ＣＬの後を追う事とする。これが大正解。ＣＬの動物的カンがこの道を選んだのだと感心する結果となりました。

冷たくて美味い水をたっぷり飲んで数分歩いた頃、ポツと一粒。雷も遠くで鳴り出していたので急いで雨具を着用。今朝の反省があったのでスムーズに着終わった。途端ドシャ降り。顔を打つ雨が痛い。雷がガラガラ鳴り出しバケツの水をひっくり返すような雨に、たちまち登山道は茶色の川になる。高山植物に申し訳ないが草つきを水を避けながら歩かせてもらう。あまりの水量に先行する高岡・来生は大丈夫か、気にかかるが見る事ができない。四苦八苦の末、本山小屋下の稜線に出る。靴は水浸し。御西小屋で着替えた靴下もビショビショ。お蔭でこの夜は素足で寝る羽目になる。

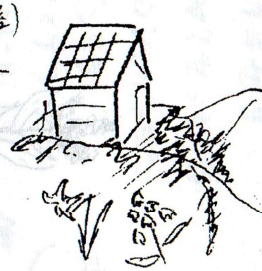
やっと小屋に到着。ＣＬも小屋直前で雨に濡れ、高岡・来生も川となった登山道を歩きやはりズブ濡れ。ごった返す小屋。どこもビショビショ。しかし先行してくれたＣＬのお蔭で２階の窓際が確保されていた。１日の歩行の中で夏山の全ての天候を体験した山行でした。雷の中特記すべき高岡の装備〔避雷性傘〕金属を使わない登山用の傘です。「備えあれば憂いなし」高岡の準備には感心しました。一段落の後、酒とウィスキーで乾杯。辛い辛いキムチ鍋で一日の疲れを癒し横になりました。Ｓ隊万歳！

備考	1．本山小屋は宿泊料 2,000円。管理人はいなかった。従ってビールもなし。 2．水場は東に少し下った所にある。キムチが辛く『あぁ！ビールが飲みたかった！』 3．本峰は翌朝空身で登った。皆は『登らなくてイイ』といったが、ＣＬのこだわり。きっと下山してからコーカイするのだ。 4．大日岳の三角点は、黒川村役場に問い合わせをした結果、西大日岳（2,091.9m）にある事を確認しました。

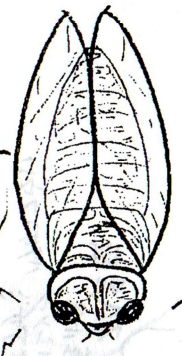
頸豊の想い出



頼母木小屋
山小屋はみんなこんな感じ
今日の小屋番は黒川村役場の
あまり山好きでない青年でしたが
親切で話すきな好青年でした。



いくつの花を
覚えたか。
辺りの山は
百花けんらん
日没前の
ゆったりした時間をすごす
乾いたのどに
ビールがしみわたる



そばに行っても
にげずに
鳴き続けた

ギイー ギイー
かん高い声で
鳴く「エゾゼミ」

花穂の山に
ひびき渡る

透明の羽・頭と体
ギイーの黒に黄色の
模様があざやか

御秘所の岩場はスリルがあったが
はるか下の方に滝や沢、残雪に
お花畑、最高の景観でした

民宿小涼さん方で頂いた
冷いトマトや、ナス、キュウリの漬物
白いあたかいおいしかった!
ごはん

おばあさんと
二人のきれいなお姉さんでした

美味しい
新潟駅前 食事処
「まるよし」
ここだけ開いていたのだ。

のっぺ
しょうゆ風味の冷汁
さっぱりおいしい具だくさん
さけ(鮭)
ナルト
ぎんなん
ごぼう
里いも
こんにゃく
しいたけ
にんじん
なめこ
れんこん

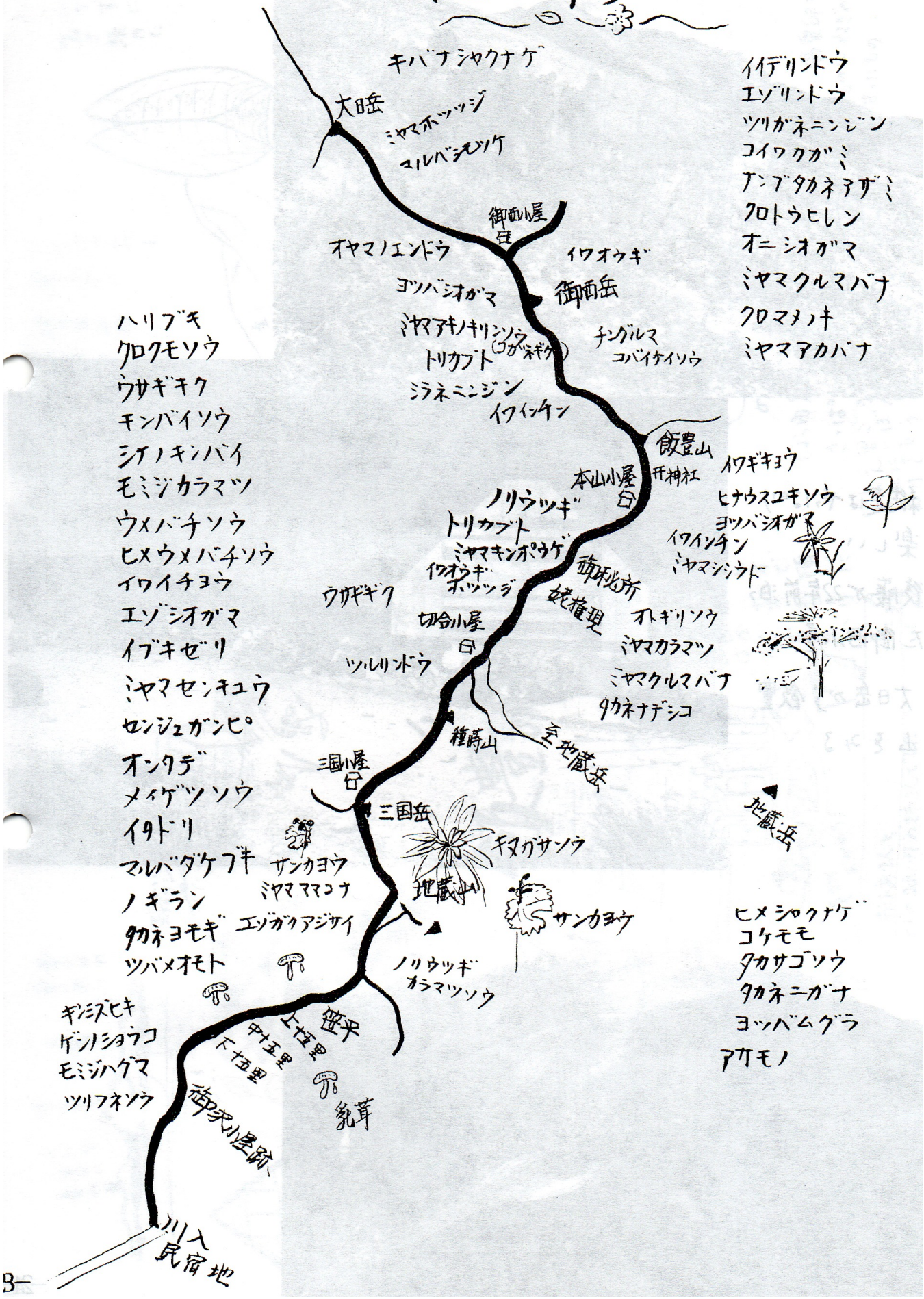
焼き魚定食は
大きなにしんの塩焼き

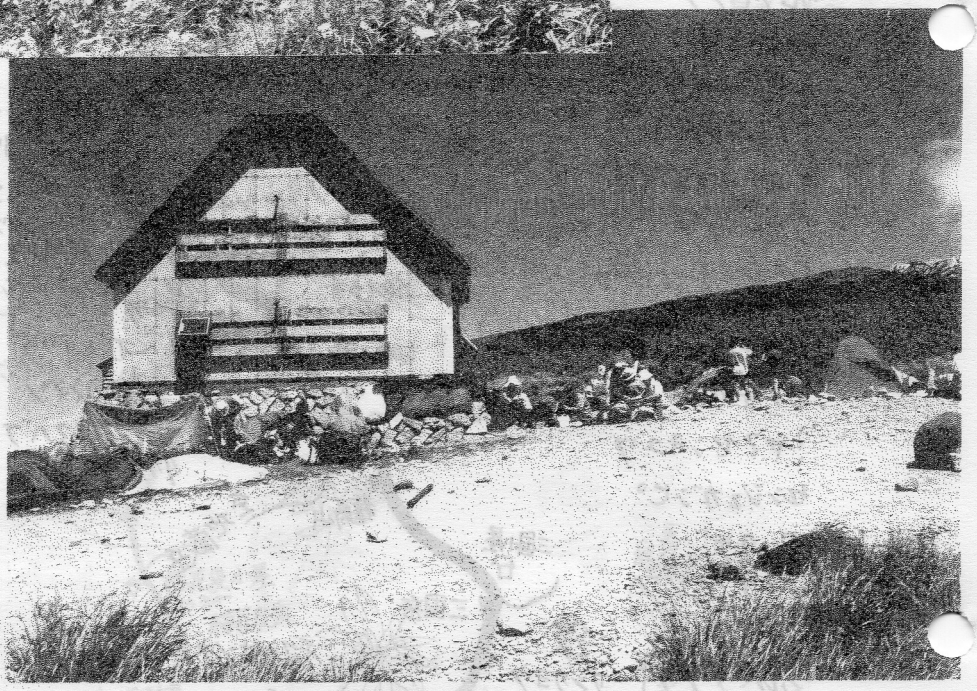
おとおしは
そうめんに温泉卵を
割入れたものに
ねぎの小口
しょうがすったもの

花の散歩道

ここにあげたものだけで
131種類でした。

花の散歩道

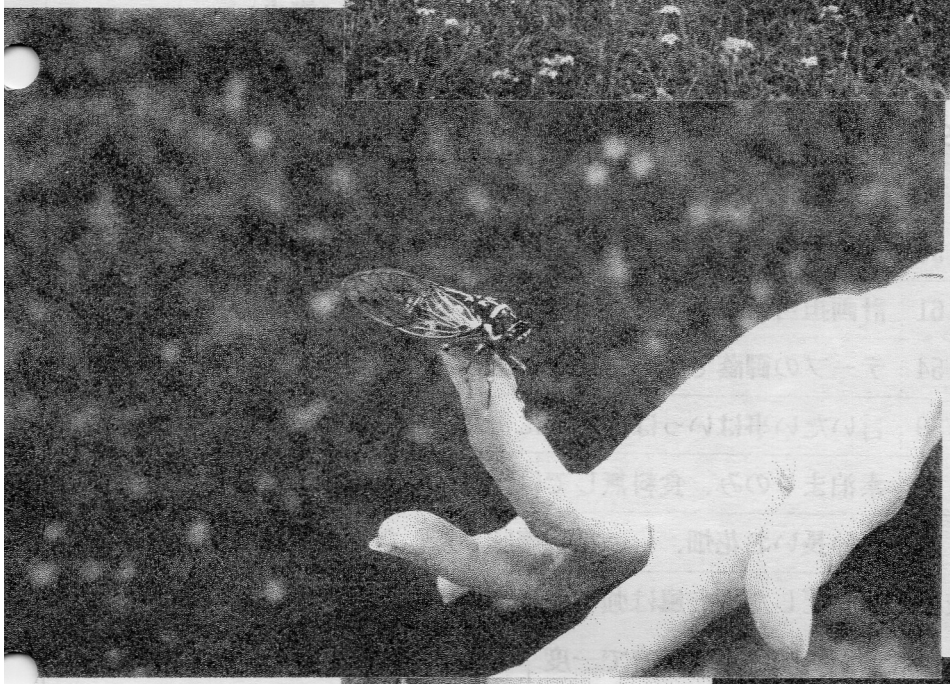

キバナシャクナゲ
大日岳
ミヤマホツツジ
マルバシモツケ
御西小屋
オヤマノエンドウ
イワオウギ
御西岳
ヨツバシオガマ
ミヤマアキノキリンソウ
(コガネギク)
チングルマ
コバイケイソウ
トリカブト
シラネニンジン
イワインチン
飯豊山
開神社
本山小屋
ノリウツギ
トリカブト
ミヤマキンポウゲ
イワオウギ
ホツツジ
御秘所
姥権現
ウサギギク
切合小屋
ツルリンドウ
種蒔山
三国小屋
三国岳
キヌガサソウ
地蔵山
サンカヨウ
ミヤママコナ
エゾガクアジサイ
ノリウツギ
オヤマツソウ
延光
上十五里
中十五里
下十五里
乳茸
御沢小屋跡
川入
民宿地
イイデリンドウ
エゾリンドウ
ツリガネニンジン
コイワカガミ
ナンブタカネアザミ
クロトウヒレン
オニシオガマ
ミヤマクルマバナ
クロマメノキ
ミヤマアカバナ
ハリブキ
クロクモソウ
ウサギギク
キンバイソウ
シナノキンバイ
モミジカラマツ
ウメバチソウ
ヒメウメバチソウ
イワイチヨウ
エゾシオガマ
イブキゼリ
ミヤマセンキュウ
センジュガンピ
オンタデ
メイゲツソウ
イタドリ
マルバダケブキ
ノギラン
タカネヨモギ
ツバメオモト
ギンミズヒキ
ゲンノショウコ
モミジハグマ
ツリフネソウ
イワギキョウ
ヒナウスユキソウ
ヨツバシオガマ
イワインチン
ミヤマシシウド
オトギリソウ
ミヤマカラマツ
ミヤマクルマバナ
タカネナデシコ
地蔵岳
ヒメシロクナゲ
コケモモ
タカサゴソウ
タカネニガナ
ヨツバムグラ
アカモノ



(上) 縦走はやっぱり楽しい

(中) 後藤が22年前泊った御西小屋

(下) 大日岳から飯豊山をみる



(上) 飯豊山手前の大お花畑

(中) エゾゼミはギィー～ギィー～と鳴く

(下) ビールはアッという間に10本空になった

ビールの数

山行報告書

山名	本山小屋～種蒔山～三国岳～横峰～川入	報告者	来生博子
この山のセールスポイント	飯豊の男らしさ、女らしさを合わせ持つ山稜から里へ		

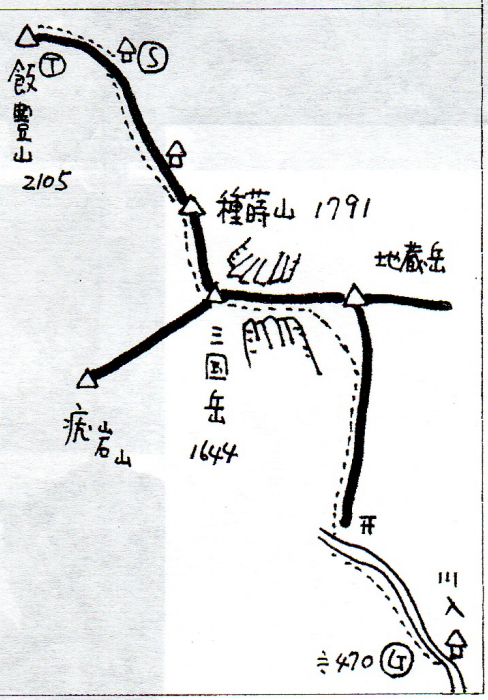
８月１３日 コース及びタイム 天候 強風雨後はれ	本山小屋3:00起床 本山　4:05～4:35（大根田・後藤・飯塚・高岡・加藤）小屋に戻る 姥権現5:15　…　草履塚5:45　…　御秘所6:15　…　切合小屋7:05　… 横峰8:36　…　笹平9:05…上十五里…中十五里…下十五里9:50（休憩）… 御沢小屋あと10:25（休憩）～10:45…御沢キャンプ場…川入部落11:12 ～12:00 →飯豊の湯通過12:13→山都駅着12:30~(新潟行き待ち合わせ２時間３０分) 15:07新潟行き乗車 ➡ 17:30着 18:00村上行き（乗り換え１番線）➡19:00中条下車　（加藤、後藤・車回収の為胎内ヒュッテまでタクシー、他は20:15まで待つ） 20:30～21:00 クアハウス→22:20新潟駅前（夕食・あづま亭） 24:00 駅前泊 〈…徒歩　→車　➡電車〉

標高差		体力度	技術度	展望度
	△S　T　≠　m	1 2 3 4 (5) 6	1 2 3 4 (5) 6	1 2 3 4 5 (6)
	▼T 2,105　G 470　≠ 1635 m			
走行距離	胎内　～　新潟　≠　km			

参加者役割				
	CL	後藤　隆徳	50	皆さんに良い山を楽しんでもらい良かった
	SL	大根田元男	61	計画担当、良かった良かった
	装備	飯塚　周一	54	テープの御蔭で完歩できたと思う
	医療	高岡八千代	59	言いたい事はいっぱいなのに言えない程良かった
	会計	加藤　秀子	48	素泊まりのみ、食料無しでは行けない想像してた以上の山でした
	記録	来生　博子	48	長い長いお花畑、　　種類確認しました　飯豊は良かった

第４日目

期待をうらぎり、夜中に降りだした雨と風は強く、小屋が揺れた。寒くはないが、すさまじい音で一度目が覚めたらもう寝れない。一時は静かになったが起床の３時には再び強く降る。行程が長いので、決行せねばならない。昨日は頭上に轟く雷に金物を隠し、ひやひやしながらどしゃ降りになった雨の中を、本山を通らずに本山小屋にやっと着いたのだ。他の人もずぶぬれで混雑の中、着替えの為にＣＬの張ってくれたツェルトが有り難かった。飯豊本山、飯塚はこれを踏めば百名山中５０山の踏破という。まだ暗い強風雨の中、空身で本山目指す。張り切ってる皆と違い私は、申し訳ないが



食の違いで少し気分が悪い。登る皆を待つ事にした。

往復４０分を１０分短縮で帰ってきた後は、いよいよ終盤に入る。大粒の雨はあられのようにカッパの中の生身をガンガン射つ。強風に飛ばされそうになり足元に全体重をかけ、岩稜を下る。登る。また下る。横殴りの雨は何時まで降るのか。そんな岩場に咲残りのイワギキョウがたった１輪、さよならの挨拶をしたかった様に咲いていた。姥権現まで来ると風雨とも穏やかになったが、カッパ着衣のまま。植物は高茎になる。純白のノリウツギが綺麗だ。トリカブトものびのび。マツムシソウも鮮やかな紫で背丈がある。この山行でどれだけ花を覚えたかなどと、名を当てっこしながら草履塚を通過すると、本日最大の難所であり、最高の悦に入る山の風景の味わい、御秘所から切合小屋を行く。蟻のと渡りからはるかに見下ろす左右は、聳えたつ山々からフレアースカートの如く草すべり、そして深い谷間いは白い雪の沢。果てのような頂点に立つ。３カ所の鎖場を越え三国岳・笹平への行程はさすが花稜の飯豊連峰と言いたい。連峰北面は植性も違い、大小の池が点在し雪渓は幾つも現れ、咲き誇る花の数は見事であった。こんなに素晴らしい神のお花畑を見てしまったら、もう私の夏は終わりだろうか。振り返ると歩いてきた稜線が延々と続く。よくぞこれまで歩けたと驚き感心する。福島県・山形県・新潟県３県のピークである三国岳を越えると、もうひとつなだらかなピークを越えて長い樹林帯のどろんこ道の下りとなる。雨上りの赤土、足裏に邪魔な無数の横這いの根っ子は滑る。

そんな急斜面を、鼻の曲がりそうな汗臭さに包まれながら足運びを慎重に、上十五里に差し掛るころ、大根田がチダケを見つけた。ここは福島県。地元での人気はないが他県から採りに来るというチダケは採ると白い汁がたくさん出る。『チダケサシ』という植物に刺すチダケとはこの茸かと知る。（チダケは乳茸）

広く明るい下十五里でスパッツもカッパもとり足がるに御沢小屋跡に着いた時は、川原の水を得、放浪の旅が終わったと思った。田植えをしたようなどろんこ靴を洗い汗を洗い流し、さっぱりして川入の民宿地まで歩く。民宿小椋さん方で電話を借り、山都からタクシーを呼び、１時間近い待時間に飲んだビールが１０本、なによりも美味しかったこと。頂いたトマトや漬物は最高。あったかい白いご飯も頂いてしまった。水が美味しいからご飯も美味しい。飯塚はタオルを頂いてご満悦。大根田は収穫のチダケをさっそく洗って刻み、加藤の作るラーメンの具にしてくれた。いい出汁が出て旨い。初めての味に舌鼓をうつ。

タクシーに乗り、３０分で福島の山都駅に着いたが新潟に行く電車は２時間以上も待つ。

サンダルを買い足を解放、飯塚は下駄を買いカラコロと涼しげだ。ここでも旅の恥は掻き捨

て、ローカルな駅前で靴下や靴、濡れた物を広げる。ＣＬはパンツも広げる。昼寝をする。木陰のベンチに「喜多方」より旨いです、と自慢のラーメンを駅正面のラーメン屋さんに出前してもらい、半分悪天だったがそれも良しの今回の東北ツアーは高岡のいうとおり、言葉に言い表わせない程良かった至福の山行と浮かれる。飯塚も詩吟の喉を聴かせる。旨いラーメンに旨いぎょうざ、またも飲んだ冷たいビールも終わるとやっと電車だよ。乗り換えをして４時間、眠る事も無く相席の女性を交え話が弾む。その方、悪臭振り撒いた私たちゴメンナサイネ。

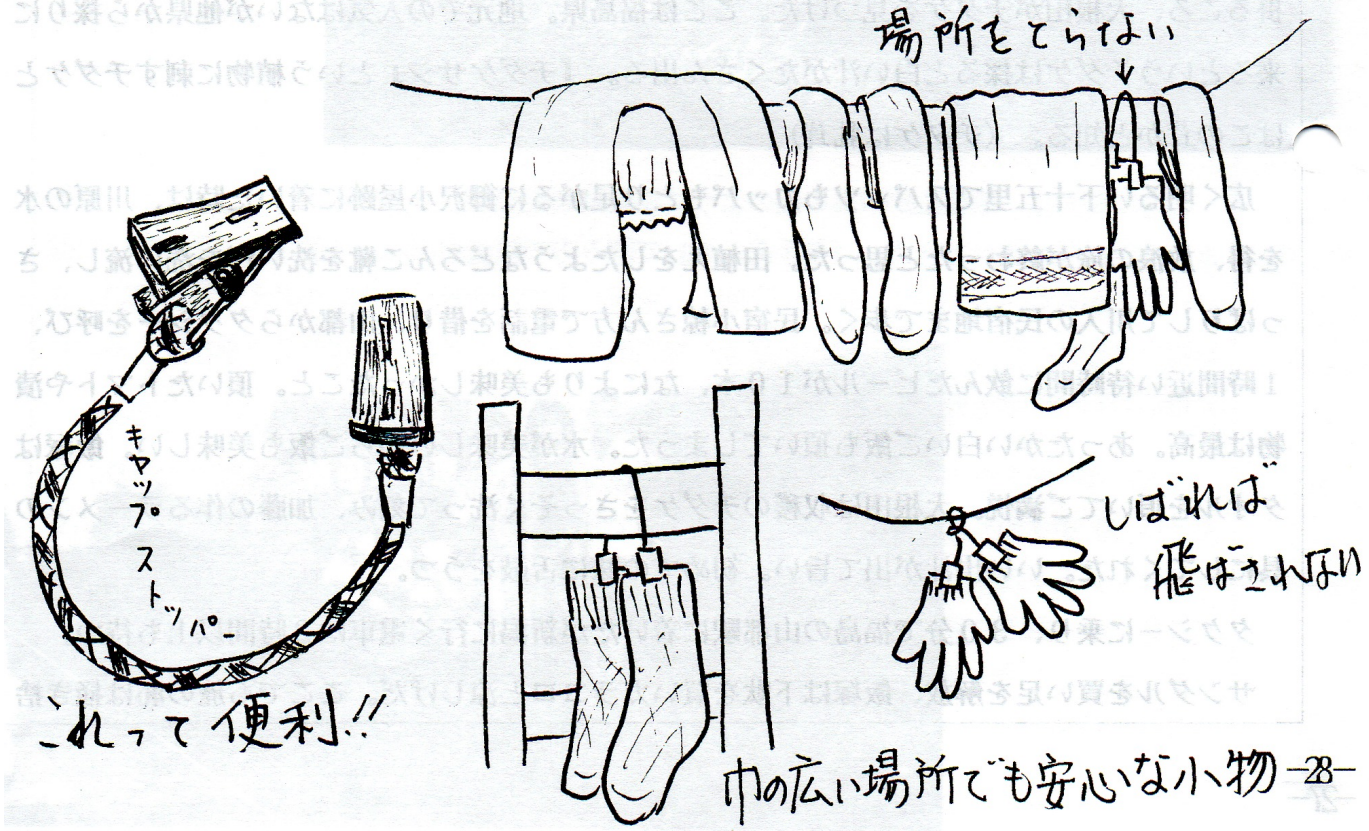
新潟駅前の「あづま亭」にて２４：００まで食事しながらの談笑。行きと同じ駐車場で寝る女性は車内、男性は車の横でテント泊。熱い夜で眠れず、うちわで煽っているうち、起床の２時となってしまった。

第５日目　２時起床　→　大和ＰＡ4:00　→　湯沢5:00　→　赤城高原ＳＡ5:30（ガソリン補給）→　鶴ケ島（関越道）6:30→入間川→川越→三芳ＰＡ6:40　→　新座7:00（首都高へ）→　大泉ＩＣ7:05　→　美女木ＩＣ7:10（外環５）　→　護国寺料金所7:30　→　北の丸（一ツ橋内堀通り）8:00　→　霞ケ丘出口8:10（東名へ・右）→　東名料金所8:40　厚木→御殿場10:10

高岡と私は熱くて眠れないままだった。ＣＬと交替で運転しなければならない加藤が、二人のおしゃべりにも気付かず眠ってくれたと言うので安心した。首都高も東名も渋滞は続き、運転している身以外は全くよく眠れた帰路だった。

半分は悪天に見舞われた飯豊山行だったが、いい思い出だ。山はいい。こんな山があるから文句無しいい。大根田さん、良い計画でした。ＣＬに加藤さん、いつもいつも我々の運び役で本当にご苦労様です、ありがとう。そして、高岡さんがいるから目標があって頑張れる。飯塚さんの繊細でなにげない心遣い、目のうえの汗止めにかつおの塩辛や、鮎の塩焼きは最高でした。

今回、自分の荷を分け与えてしまい、皆の荷を重くしてしまった事、深く反省しています。



食料計画の総括

加藤秀子

長い縦走なので基本的に軽量化を計った。水は豊富に使えるので主食は乾燥米を主体とした。
朝食・・・①基本的には前夜の残りのスープのオジヤにした。時間がかからず流動食なので食べられる。ただ、早朝なので摂取量がマチマチで残飯が出ると処理に困る。朝飯は如何なる時でもしっかり食べたい。
②食後のフルーツは美味しく活力源になった。

昼食・・・①今回試しに、赤飯の乾燥米を朝もどしてアルミホイルにくるみ、行動としてみたがとても好評であった。もち米なので腹持ちが良く、適当に水分があってとても美味。又、アルミにくるまずタッパを用いて弁当方式にすれば、何日でもその容器で対応できる。塩はフィルムケースに入れ食べる時に振った方が良い。
②全体的に量が少なかったので、計画には無かった飯塚パンとドラ焼きの差入があり助かった。
③みかんは事前に高岡と検討し、皮の固い特殊な甘いみかんを用意してもらった。銘柄は不明だがザックの中で潰れるような事はなかった。
④スポーツドリンク、梨、りんご、プラムは傷みもせず美味しかった。都こんぶ（酢味）も汗を流した後はいける。

夕食・・・①肉の保存は生のニンニクをたっぷりすって混ぜ合わせておいたのが良かった。焼肉・カレーとも大丈夫だった。
②そうめんが手軽で意外と美味。
③キムチ鍋は予定していた、水の出る野菜が腐って使えず、味が濃くなってしまい『辛い！辛い！』と大不評。水の出ない野菜はＯＫ。

※夏の食料という事で、如何に日持ちができるか・又行動食をどうするか、大分頭を悩ませたが、無事終了した事でホッとする。もう少し勉強したい。

装備計画の総括

後藤隆徳

長い縦走、参加者の年令、下記の小屋泊まりを考えシュラフレスとし、着替え等も工夫し最大限の軽量化を計った。
①シュラフレスとしシュラフカバーで対応した。２日目の夜寒かった人が一人いたが、概ね良好だった。只当初寒い時はカッパを着込む計画はカッパが濡れ乾かず使えなかった。
②マットが冬山仕様の人もいたが、銀マットで十分である。
③カメラが旧式の重量カメラの人がいたが金を惜しまず軽量化を計るべき。本来カメラは個人装備でなく、隊の装備として持参したい。
④塩辛の瓶、ウィスキーの瓶等ダッパかプラスチックの入れ物にすべき。又会山行は打合せのない事は止めた方が良い。
⑤高岡さんが防雷用の山用の傘を使用していたが、以後山ではこの傘を使用する事又雷が近づいた時、ザックにカラビナを掛けておくのは止めた方がよい。帽子のバッチも外す。
⑥着替えは冬用のオーロンの上下の下着のみとした。２日目雨に濡れ使用したが十分であった。ただ必要以上の着替えは持ち込まない申し合わせが守られなかったのは遺憾である。夏山も冬山の「必要最低限で登る」感覚が必要。
⑦燃料はコンロ満タン持込み５回使用で１Ｌ強だった。計画は３Ｌだったが２Ｌでも良かった。
⑧コンロ予備として、ブタンガス１台装備したが使用しなかった。
⑨ポリタン等、さもない装備も例えば「水場が遠い」事を想定すると取っ手のあるものが良。
⑩予備の靴下を途中で交換し、雨に濡らしてしまい夜寒い思いをした人がいたが、山は最後まで安心してはいけない。

※全体的に軽量化の思想が未だ未だである。やはり出発前「荷合わせ」が必要。だが、シュラフレスの実績は残した。